

# 故郷明科を愛した能楽師・「信州安曇野能楽鑑賞会」の生みの親

青木 祥二郎(あおき しょうじろう)

明科中川手出身

<青木祥二郎が活躍した時代>

1914年(大正3)～1999年(平成11) 享年85歳

大正	昭和										平成		
3	3	8	17	43	50	53	60	62	63		1	11	
明科中川手に生まれる。	謡曲となす。	日本画家、尾景祥流の学	能修業に専念する。	観内弟子と分片山博通、師	の独立して観世流師範	す観る。職分格に昇格	(昭函南び明。昭和書小62年寄で) び明。南書小。資金を寄贈する。及	る定重。保無持者。の文化認定(総合認	記明念科町能舞会を催す。周年	職能分楽師に最高位。観世流	を高許の秘曲。姨捨」の開曲最	選明定科町名譽町民第一号に	病気のため亡くなる。

## 能楽の道を究めた、重要無形文化財保持者(人間国宝)の能楽師。



明科中川手明科に生まれ、本名は匡(ただし)と言いました。高等小学校1年修了と同時に郷里を出て、後に志を立て、能楽の道に入りました。内弟子時代は苦しく、また厳しい修業を積み、1942年1月に独立して「観世流師範」を許されました。1968年12月、「職分格」に昇格し、1978年5月に、重要無形文化財保持者(総合認定)の認定を受けました。1988年10月には、能の道にある者が望む最終の目標とも言われる、能楽最高の秘曲「姨捨」を開曲する等、能楽一途に伝統芸術の振興と創造に努めました。明科で行われている薪能に出演し、地域の芸術文化の振興にも大きな功績を残しています。

### ～明科愛溢れるエピソード～

- ① 旧明科町名譽町民第1号！！(平成元年)
- ② 息子とともに故郷明科へ戻った祥二郎氏は、久しぶりにアルプスを眺めて、「どうじゃ道喜、わしの故郷はすごいじゃろう」とご機嫌に自慢をしていました。
- ③ 「自慢の故郷で薪能をしたい！」故郷に恩返しを！との想いから、名譽町民選定を機に、平成3年に「信州安曇野能楽鑑賞会」を始め、青木祥二郎氏が亡くなった後も、ご子息である青木道喜氏をはじめとする一流の能楽師らによって開催され、明科の夏の風物詩となっています。
- ④ 地元の小学校には「竜神の図」や12年間にわたり管楽器及び図書資金を寄贈しています。現在、寄贈された図書資金で購入した本は「青木文庫」として親しまれています。また、町制施行30周年の式典後に能舞の披露もしていました。
- ⑤ 晩年には、長峰山からの散骨を遺言として残しました。



青木先生の講演を観賞する小学生

#### 【参考文献】

安曇野市 HP「安曇野市ゆかりの先人たち」・ 明南小学校開校50周年誌「さいがわ」  
明北小学校開校50周年誌「かんだち物語」・ 創刊200号記念「町報あかしな縮刷版」